

景気動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>)「調査レポート」をご覧ください。

「(山形・秋田)県内企業の景気動向調査」(概要)

① 調査の目的

山形・秋田県内に本社を置く法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しについて調査を行い、景気の動向を把握することを目的とする。

② 調査の方法

すべての質問事項についてDI (Diffusion Index) 値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は「自社の業況DI値」= (「良い」と回答した企業の割合) - (「悪い」と回答した企業の割合)

③ 調査期間

令和2年2月3日(月)～14日(金)

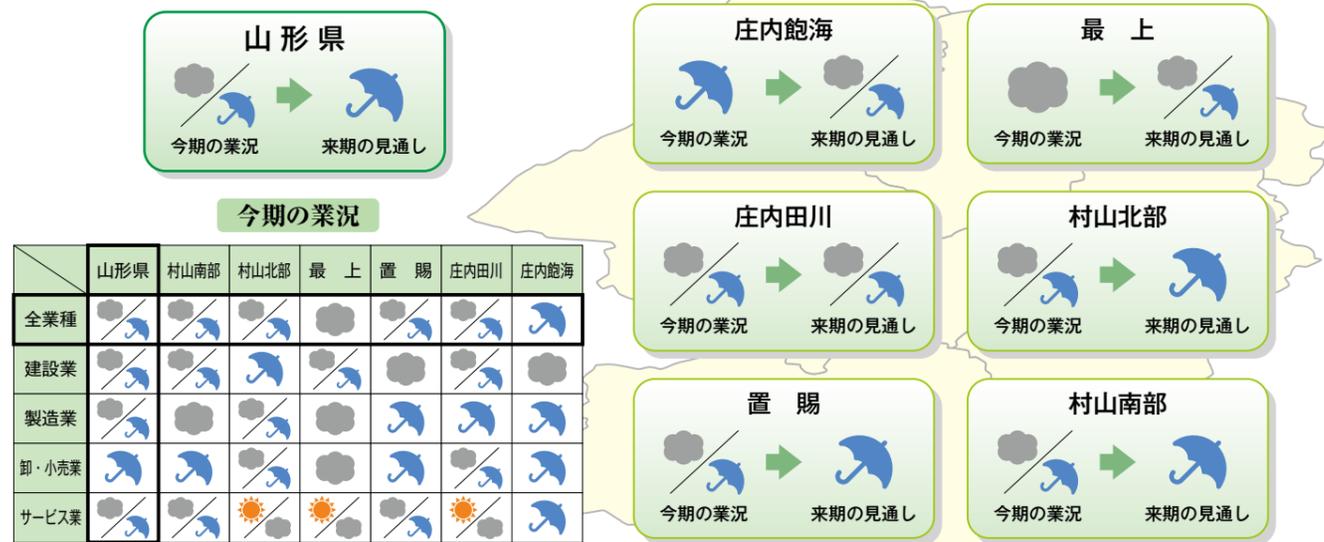
④ サンプル概要

アンケート対象企業 山形666社、秋田516社
有効回答数 山形412社、秋田377社
回答率 山形61.9%、秋田73.1%

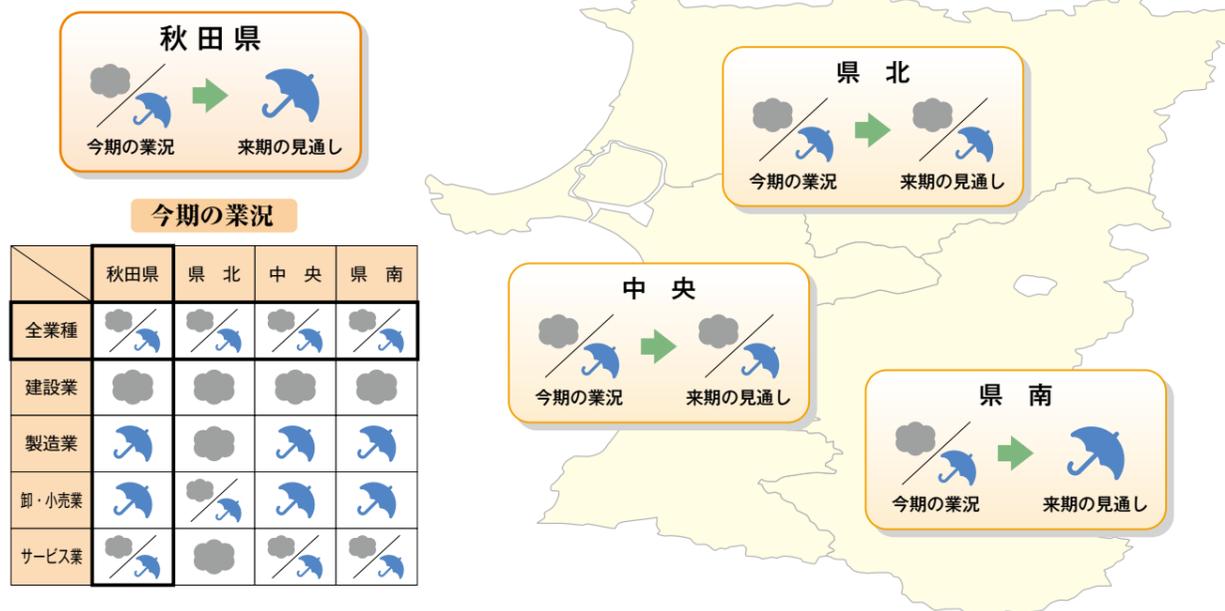
特に好調 DI \geq 30	好調 30>DI \geq 10	まあまあ 10>DI \geq ▲10	不振 ▲10>DI \geq ▲30	きわめて不振 ▲30>DI

景気の天気図

第62回 山形県内企業の景気動向調査

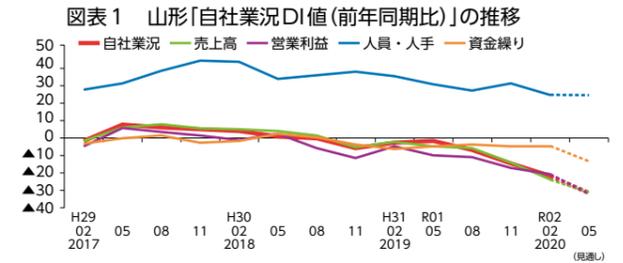


第35回 秋田県内企業の景気動向調査

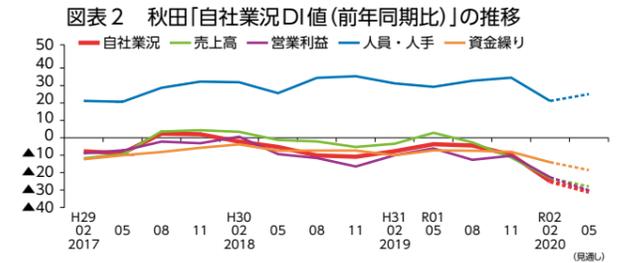


■ 自社業況の動向

山形県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲22.6(前回調査比7.3ポイント下落)と**3期連続で悪化した**。「各種DI値(前年同期比)」をみると、「資金繰り」がおおむね横ばいとなったものの、「売上高」「営業利益」はいずれも悪化し、「人員・人手」はプラス幅が縮小した。

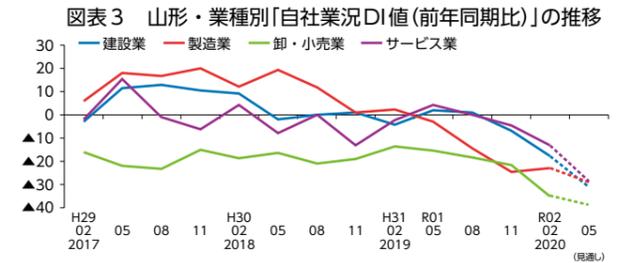


秋田県の業況は、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲23.9(前回調査比16.3ポイント下落)と**3期連続の悪化**となった。「各種DI値(前年同期比)」では、「売上高」「営業利益」「資金繰り」はいずれも悪化し、「人員・人手」は3期ぶりにプラス幅が縮小した。

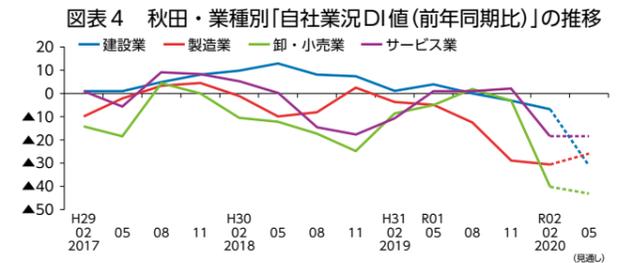


■ 業種別の動向

山形県の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業とサービス業が3期連続の悪化、卸・小売業が4期連続の悪化、製造業が4期ぶりの改善、**3業種で悪化**となった。

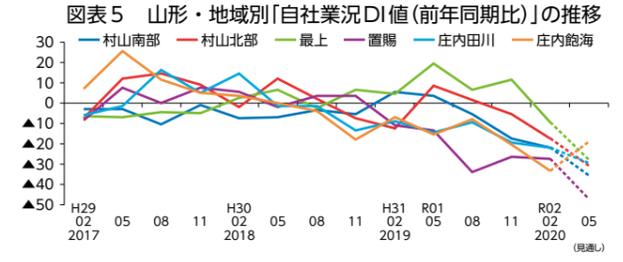


秋田県の業況(前年同期比)を業種別にみると、建設業は3期連続の悪化、製造業は5期連続の悪化、卸・小売業は2期連続の悪化、サービス業が2期ぶりの悪化と、**4業種すべてで悪化**となった。特に卸・小売業ではマイナス幅が大きく拡大した。

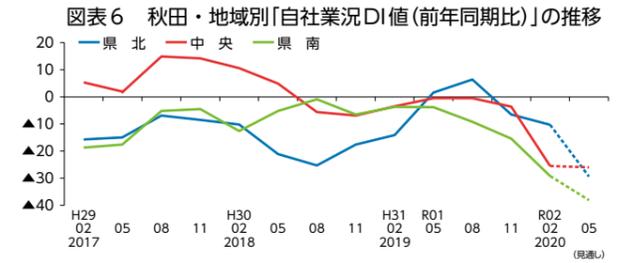


■ 地域別の動向

山形県の業況(前年同期比)を地域別にみると村山南部で4期連続、村山北部で3期連続、庄内田川と庄内飽海で2期連続の悪化、最上と置賜で2期ぶりの悪化と、**すべての地域で悪化**となった。最上ではDI値がマイナスに転じた。



秋田県の業況(前年同期比)を地域別にみると、県北と中央が2期連続、県南が4期連続で悪化と、**すべての地域で悪化**となった。



消費動向調査

詳細は当社ホームページ (<https://www.fir.co.jp/>)「調査レポート」をご覧ください。

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

- ① 調査の目的 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。
- ② 調査の方法 専属モニターを対象とした郵送およびインターネットによるアンケート調査
- ③ 調査の対象者 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数2名以上)
- ④ 調査期間 令和2年3月2日(月)～13日(金)

山形	モニター世帯数：253世帯
	有効回答数：229世帯
	回答率：90.5%
秋田	モニター世帯数：243世帯
	有効回答数：224世帯
	回答率：92.2%

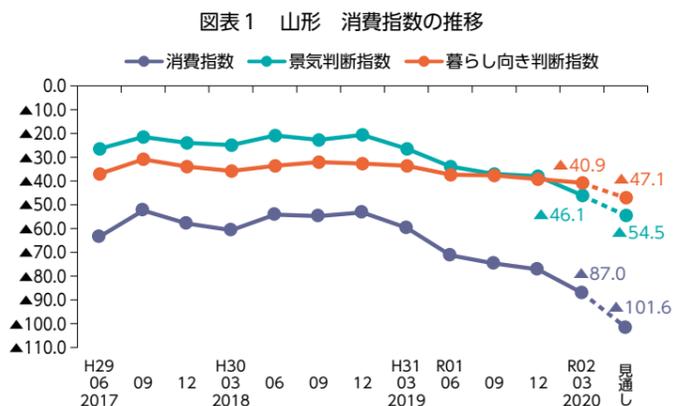
消費指数

第55回 山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは5期連続で悪化。先行きも悪化の見込み～

消費指数は▲87.0(前期比9.9ポイント下落)と5期連続で悪化となった。内訳は、景気判断指数が▲46.1(前期比8.1ポイント下落)と5期連続で悪化、暮らし向き判断指数が▲40.9(前期比1.8ポイント下落)と6期連続で悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲101.6(今回調査比14.6ポイント下落)とさらに悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲54.5(今回調査比8.4ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲47.1(今回調査比6.2ポイント下落)と、ともに悪化が見込まれている。

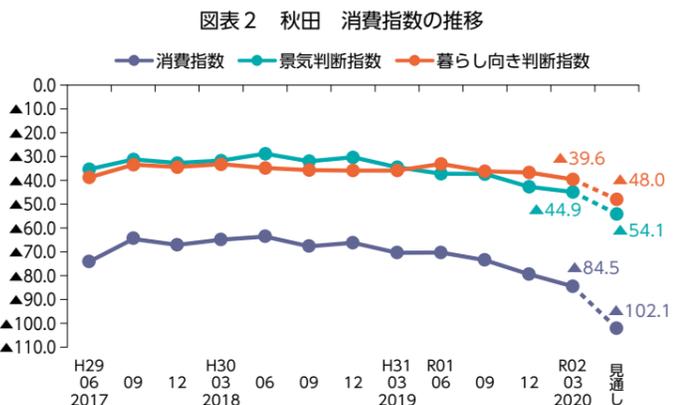


第35回 秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは3期連続で悪化。先行きは厳しい見通し～

消費指数は▲84.5(前期比5.1ポイント下落)と3期連続で悪化した。内訳をみると、景気判断指数は▲44.9(前期比2.2ポイント下落)と5期連続で悪化、暮らし向き判断指数は▲39.6(前期比2.9ポイント下落)と3期連続の悪化と、ともに悪化となった。

今後の見通しは、▲102.1(今回調査比17.6ポイント下落)と大幅な悪化の見通しとなっている。内訳は、景気判断指数が▲54.1(同9.2ポイント下落)、暮らし向き判断指数が▲48.0(同8.4ポイント下落)と、ともに悪化が見込まれている。



【指数の見方】

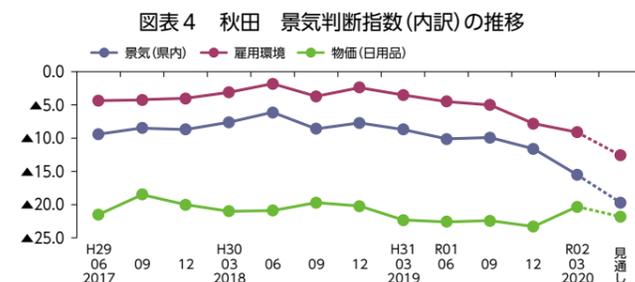
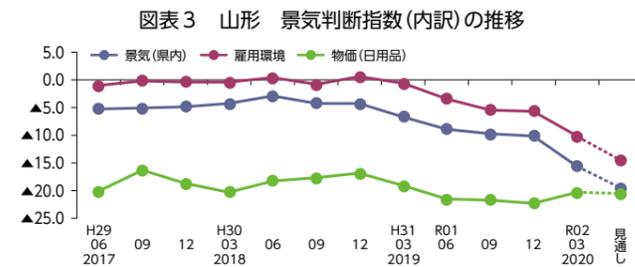
消費指数は景気判断指数(景気・雇用環境・物価の3項目で構成)と暮らし向き判断指数(世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成)の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

景気と暮らし向き

景気判断

山形の景気判断指数は▲46.1(前期比8.1ポイント下落)と5期連続で悪化となった。景気判断指数を構成する3つの指数については、「物価(日用品)」は5期ぶりに改善となったものの、「景気(県内)」が7期連続で悪化、「雇用環境」が5期連続で悪化となった。

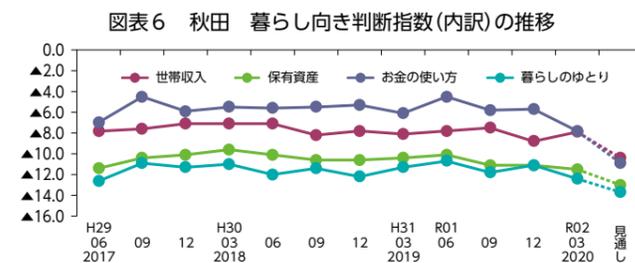
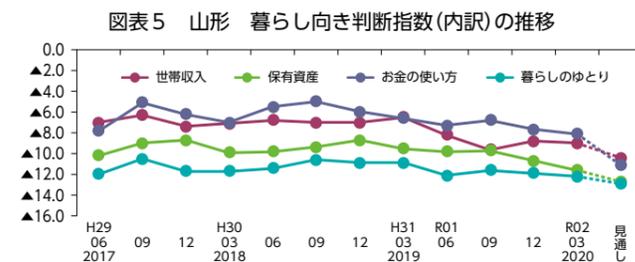
秋田の景気判断指数は▲44.9(前期比2.2ポイント下落)と5期連続で悪化した。指数を構成する個別指数でみると、「物価(日用品)」は改善した一方、「景気(県内)」と「雇用環境」は悪化となった。



暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲40.9(前期比1.8ポイント下落)と6期連続で悪化となった。暮らし向き判断指数を構成する4つの指数については、「世帯収入」が2期ぶりに悪化、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」が2期連続で悪化となった。

秋田の暮らし向き判断指数は▲39.6(前期比2.9ポイント下落)と3期連続で悪化した。指数を構成する個別指数でみると、「世帯収入」は小幅ながら改善した一方、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」の3項目は悪化となった。



家計収支

山形の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が432千円と前年同期に比べて41千円の減少となり、支出面では支出合計が381千円と前年同期比で26千円の減少となった。

この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は88.2%と、前年同期に比べて2.1ポイントの上昇となった。

秋田の収入面では可処分所得(収入の手取り額)が427千円と前年同期比で3千円の増加となり、支出面では支出合計が367千円と前年同期比で46千円の減少となった。

この結果、平均消費性向(家計支出/可処分所得)は85.9%と、前年同期に比べて11.4ポイントの低下となった。

